

○ザルビオフィールドマネージャーは、各圃場の土壌や作物の品種特性、気象情報、人工衛星からの画像等をAIが解析して、作物の生育や病害・雑草の発生を予測、最適な防除時期や収穫時期等を提案します。
 ○いつ、どのような作業が必要かを圃場ごとに把握できるため、効率的な栽培管理計画を作ることが可能です。



ザルビオ機能紹介

スマート農業の初級者から上級者をサポート

衛星画像が農家の目「確認」をサポート（初級者）
 AIが農家の頭「判断」をサポート（中級者）
 スマート農機との連携で農家の手「作業」をサポート（上級者）

初級者向け

- 地力マップ
- 生育マップ
- 散布天気

【地力マップ】
 AIが過去15年分の衛星画像を解析し、過去の生育傾向を圃場内で相対的に色分け

緑が濃いゾーン 地力が高い
 緑が薄いゾーン 地力が低い

【生育マップ】
 AIが毎日更新される衛星画像を解析し、圃場内の生育状況をLAI値と濃淡で表示

活用事例①
 生育の弱いところにドローンで重点的に追肥
 →前年より収量20%UP

中級者向け

- 生育ステージ予測
- 病害リスク予測
- 施肥・水管理の推奨
- 大豆雑草管理プログラム

【生育ステージ予測】
 ・作物の品種特性
 ・気象状況や予報をAIが解析して生育を予測する

BBCH51* 出穂始:10%出穂

活用事例②
 適期作業の実施 →品質UP

活用事例③
 適期防除で病害被害を軽減 →収量UP

【病害リスク予測】
 ・圃場ごとにリスク特定
 ・病害リスクが高まるとアラート通知
 ・リスクの高さに応じた薬剤防除で撒き遅れを防ぐ

4日先のリスクまで予測
 ● 低リスク
 ● 中リスク
 ● 高リスク

上級者向け

- 可変施肥のためのマップ生成
- 可変散布のためのマップ生成
- スマート農機との連携

【可変マップを自動作成】

ベースとした地力マップ → 生成した可変施肥マップ

地力マップ、生育マップをもとに可変散布マップを自動生成。対応可能な農業機械に読み込ませることで、マップで指定したとおりの施肥が可能

活用事例④
 地力・生育の強いところは施肥量を少なく、地力・生育の弱いところは施肥量を多く設定
 →収量15%UP